

# 和東の若者グループ「百姓王国」

里を囲む山々に茶園が広がる和東町で、20代の若者が中心の農事組合法人「百姓王国」が、荒れ果てた茶園を整備して大規模な茶づくりに取り組んでいる。メンバーの多くは都

会生活に見切りをつけて就農した人たち。代表理事の仲小路治朗さん(25)は「農業の楽しさを和東の地から全国に発信したい」と話している。

## ちびらば都会、めざす茶園

「百姓王国」は仲小路さんら若者5人と地元で茶農家を営む杉本由己さん(48)が組員。昨年5月に発足した。大阪の大学生だった仲小路さんと

松本裕和さん(25)が96年から97年にかけて、杉本トをしたのがきっかけ。2人は就職活動の合間

## 荒廃地を整備、規模拡大

を縫って和東町に通い、自然相手の農業の魅力にとりつかれた。「新芽が伸びていることに喜んだり、霜が降りて茶の木が悪くならないかと心配したり。毎日が新鮮な経験でした」。仲小路さんは当時を振り返る。

大学卒業前に農業をす

ることを決意した2人は、杉本さんやほかの若者とともに効率のよい集団農業を目指すことに。情報誌などで呼びかけてさらに仲間を増やし、高齢で茶づくりができなくなった農家から茶園を引き取って

茶園で力いっぱい働いた後の楽しみは仲間と酒を酌み交わすことだ。そんな席では新しいアイデアも飛び出す。現在約2割の茶園で試している、化学肥料を使わない有機栽培もこんな席から出てきた。精神的な若者たちを杉本さんは「無理だと思えるものにとんどん挑戦して実現していく」と見守っている。

「百姓王国」のメンバーら。茶工場では茶葉を乾燥させる機械の運転が続く。和東町杉田で

## 自然と仲間が魅力 新アイデアに挑戦

連休明けから茶摘みシーズン。若者たちは茶葉を乾かし、荒茶を作る作業に追われている。「将来は茶園を100軒まで広げ、全国から有志を募って日本一の茶をつくりたい」。仲小路さんらの夢はあきらめず